

1. 事業の名称：平成27年度 教育臨床内地留学
2. 留学先の名称：三重大学
3. 研究主題：高等学校における学校不適応予防支援としての社会的スキル教育に関する研究  
—良好な人間関係の築きを目的とした授業実践—

#### 4. 研究成果の概要：

本研究は、高等学校の課題の一つである学校不適応による中途退学を予防するために、良好な人間関係の築きを目的として研究を行った。近年、人間関係の支援について学校での社会性や対人関係能力を育むための取り組みの必要性が求められ、社会的スキル教育の実践や研究が広がりつつある。しかし、高等学校ではあまり行なわれていない状況がある。そこで、高等学校においてどのような社会的スキル教育の授業を行うと学校不適応予防支援につながるのかについて、3つの研究を行い検討を行った。

研究1では、教員の社会的スキルの捉え方について調査を行い、教員は学習の必要性は感じながらも具体的な指導には至らない状況があり、研修の必要性や時間の確保の難しさを感じていることが考えられた。

研究2では、高校生にどのような社会的スキルの学習が必要なのかについて、教師と生徒に調査を行った。その結果、高校生に社会的スキルに関する教育を行うことは、学校不適応予防支援として有効であるだけでなく、その後の社会生活にうまく適応していくためにも必要不可欠な事であると考えられた。また、高校生にとって社会的スキル教育とは、自尊感情を高めるうえで重要な介入であると考えられ、習得しているから学ぶ必要はないと判断するものではなく、習得していても学びたいと考える学習であり、すべてのスキルに習得希望があるニーズの高い学習と考えられた。さらに、教員の習得させたいスキルと生徒が習得したいスキルの選択に差がないスキルと差のあるスキルが存在することが明らかとなった。この結果は、高校生になると生活環境の違いや成功体験の違いによりスキルの習得や希望に差があること、教員が考えている以上に基本的なスキルに自信がない状況があることなどを示していると考えられる。これらのことから、生徒に対して丁寧なアセスメントを行うことが大切であり、その状況に応じた取り組みが必要であると考えられた。

研究3では、教員と生徒の選択に差があるスキルについて指導プログラムを作成し実践授業を行った。研究2の結果から、生徒が自己紹介や質問など、自分の考えや思いを伝えることに苦手意識があるために自己主張について学ぶ必要があり、教師は人の話を聴くことや相手への思いやりなどを重視していることから他者受容について学ぶ必要があると考えられた。そこで「話し方（自己主張）」「聴き方（他者受容）」について授業を行なった。この「話し方（自己主張）」「聴き方（他者受容）」を相互に行うことによりコミュニケーションが成立すると考えられ、このコミュニケーションのやり取りを通じて人間関係が作られるため、良好な人間関係を築くためにも必要なスキルであると考えられた。実践授業により、自己主張と他者受容において事前より事後の方に有意に高い評価がみられており、「自己主張」と「他者受容」について効果がみられたと考えられる。

これらの研究により、生徒の状況を丁寧にアセスメントすることや対人場面において良い強化を積み重ねるためには、今回の授業のように教師の介入が重要であり、この介入を行うためには、教員の社会的スキルに対する研修が必要であると考えられた。今後は、教員が研修により理解を深め、スキルを意識して取り入れることや日常生活での生徒への関わりを変容することにより、個々の生徒のスキルを高め、生徒同士の相互作用を促し、対人場面において良い強化（成功体験）の機会を増加させるような取り組みを行うことで、教師ができる学校不適応予防支援を広げていけるのではないかと考えられる。

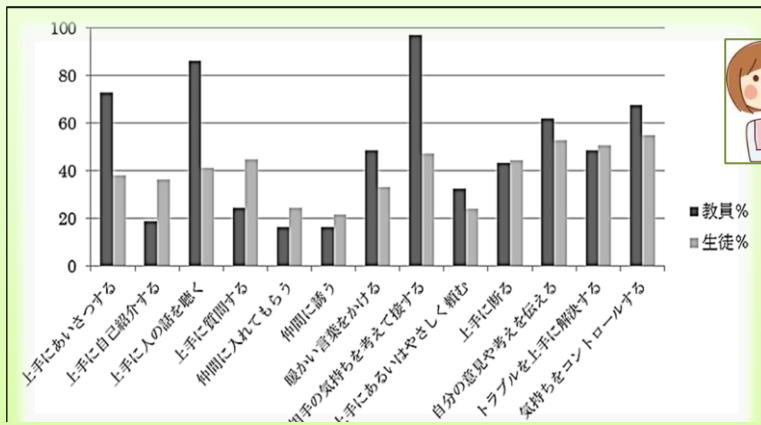
# 高等学校における学校不適応予防支援としての 社会的スキル教育に関する研究

—良好な人間関係の築きを目的とした授業実践—



平成 27 年度教育臨床内地留学 栗谷 美樹（三重県立相可高等学校）  
指導教員 三重大学教育学部 中西 良文・廣岡 雅子・田中 健史朗

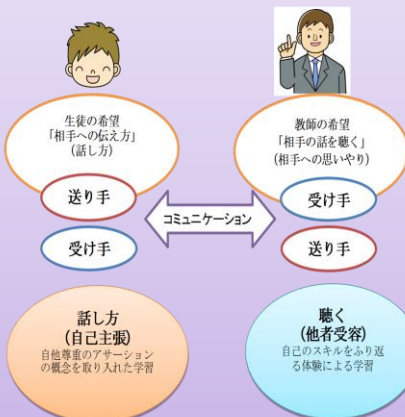
教員が生徒に習得させたい社会的スキルと  
生徒が習得したい社会的スキルには差がある！



双方から希望があるスキルは、問題意識を持ちやすいため、日常生活においても学習する機会は作りやすいことが考えられるが、習得に関して差があるスキルは、学習する機会が作りにくいことが考えられる。

高校生になると生活環境の違いや成功体験の違いに個人差が大きくなり、スキルの習得や希望に差があること、教員が考えている以上に基本的なスキルに自信がない状況などが考えられるため、生徒に対して丁寧なアセスメントを行うことが必要であり、状況に応じた取り組みが大切であると考えられる。

教員と生徒の意識に差のあるスキルをコミュニケーションの側面からとらえる！



自己尊重(アサーションの概念)を劇で表現

いろいろな聞き方を経験して、今までの聞き方を振り返る



コミュニケーションスキル(自己主張・他者受容)の理解や意識づけには効果があった。しかし、適応感を高めることにはつながらなかった。

- ①高校生に社会的スキルに関する教育を行うことは、**学校不適応予防支援として有効**であるだけでなく、**その後の社会生活にうまく適応**していくためにも必要不可欠なことである。
- ②高等学校における社会的スキルの学習は、「**生徒の実態を丁寧にアセスメントすること**」と「**授業後の実践による成功体験**」が必要である。
- ③高等学校における学校不適応予防支援としての社会的スキル教育は、**教員が研修により理解を深め、スキルを意識して取り入れること**や日常生活での**生徒への関わりを変容すること**により、個々の生徒のスキルを高め生徒同士が相互作用を行うことにより、**学校に対する肯定感が向上**されると考えられる。